

Topics

国際交流の輪広げる初の国際寮 日本人学生と留学生が共同生活 今年3月、日野市にオープン

中央大学で初めての国際寮が今年3月、日野市多摩平にオープンした。留学生との共同生活で国際感覚を育む、というのが狙いで、日本人学生と私費留学生、交換留学生の3人1組で各部屋に暮らす。オープンしてから10カ月近くが経ち、国際コミュニケーションの輪が一段と広がっている。

10カ国留学生ら50人入居

国際寮は、JR中央線豊田駅から徒歩10分の距離にある4階建ての「UR多摩平の森244号棟」（日野市多摩平3-1-8）で、全64室ある。現在は、欧米とアジア10カ国の留学生を含めた50人が入居し、共同生活をしている。

入居者はそれぞれが個室に入っているが、キッチン、バス、トイレは共用だ。大きなテレビのある共同スペースが交流の場になっている。寮費は食事なしで、月6万円。

法学部1年の黒澤舜輔さん（西

武文理高校出身）と韓国からの私費留学生で法学部1年のホン・ソンユン（洪性潤）さん、それにドイツ・ヴュルツブルグ大学からの交換留学生で法学部で学ぶヴィルト、ユリア・クリスティナ（WIRTH, Julia Kristina）さんの3人は、隣り合わせた別々のユニットで生活し、洗面所を共有している1組だ。

身に着く語学と国際感覚

「国際寮での生活のスタートは、大学生活のスタートでもありました。大学にも寮の仲間がいるという安心感から、大学生活をスムーズに始め

ることができました」と語るのは黒澤さん。

もともと国際交流に興味があったが、国際寮に入寮する決め手になったのは、「どうしても一人暮らしをしたかった」と、両親のすすめがあったからだ。入寮当初は、「留学生との壁を感じるのではないかと不安もあった」というが、「フレンドリーで日本語がとても上手な留学生」と交流するうちに、外国人という意識も薄れていった。

「国際寮では共同生活といっても、個室があるのでプライベートをしっかりと分けて生活できるうえに、夜遅



国際寮の外観



黒澤舜輔さん

く帰ってきて共同スペースに寮の仲間がいるとホッとする。月日が経つにつれて、互いに語学の勉強を助けあったりして、雰囲気は良くなってきています」

こう語る黒澤さんは、留学生と一緒に生活していくなかで、自分自身にも変化がでてきた。「実は、自分の日本語を見直すようになったん



ソンユンさん (左) とユリアさん (右)

です」と笑う。「留学生たちは自分の日本語を一生懸命に聞き取るので、自分が正しい日本語の使い方をしているか気になってきた」という。

共同生活で留学生とコミュニケーションをとっていると、お互いの語学力の上達を肌で感じることができ一方、国際感覚も自然に身に着いてくるようで、黒澤さんは「外国人に対する偏見に近い先入観をなくしたい」と考えるようになった」と語る。黒澤さんは、海外インターンシップを通じて国際経済社会を牽引する

リーダーの輩出を目指す学生団体「アイセック・ジャパン」で活動している、国際寮での生活が課外活動にも役立つている。

私費留学生と交換留学生

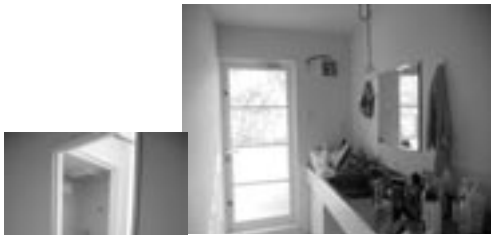
韓国からの私費留学生、ソンユンさんが来日したのは、未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生した3月11日だった。「日本に到着した1時間後に大地震がありました。一人でとても怖かった。でも国際寮ならば、日本人も住むので安心だと思いました」と来日時を振り返る。韓国でも寮生活の経験があるソン

ユンさんは、「韓国では2〜3人が一緒に部屋でした。ここでは個室なのでありがたいです」と話す。共同生活については「当初は日本人や他の外国人と仲良くなれるかという不安もあった」というが、「あつという間に仲良くなって、一緒に遊びに出かけたりもしています」と話し、いまは経営学を学びながら国際寮での生活をエンジョイしている。

国際寮で暮らす留学生の顔ぶれは、前期と後期で大きく変わる。それに伴い、新たなコミュニケーションもでき



ずらりと並ぶ炊飯器類。みんなで使うキッチン



1組3人で共有の洗面所



シャワールーム

る。ドイツからの交換留学生、ユリアさんは9月5日に来日し、国際寮に入居した。

「小さいころから日本に住みたかった」というユリアさんは、「国際寮ではいろいろな国の学生がいて寂しくない。友達も増えた」と笑顔で語る。その言葉通り、ユリアさんは日本人、韓国人、中国人、そしてドイツ人という多国籍な仲良しグループを中心になってまとめ、黒澤さんからは「みんなが仲良くなった仕掛け人の一人」とみられている。

パーティー開き、交流深める

国際寮では、共同スペースを上

手に使って、国際交流を図っている。時々、野外パーティーも企画されている。みんなで炊飯器がずらりと並ぶ共同キッチンで調理し、寮の前庭にあるベンチを活かして、フランス料理やベトナム料理のパーティーを開いたり、10月末にはハロウィンパーティーも行った。

国際寮以外に住む留学生も訪ねてきて、「とても賑やかで、友達の間でも仲良くなれる」とユリアさんは言う。交換留学が終わる来年1月までには、さらに国際交流の輪を広げ、友達の数も増えるに違いない。

(学生記者 渡辺紗希 // 法学部2年)